

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する	
めざす子ども像	あいさつをする子	・コミュニケーションのきっかけとなるように気持ちの良いあいさつを行う。 ・あいさつを通じて仲間と親しみを持ちながら、遊びの中で協同性や道徳心を養う。
	話を聞く子	・経験したことや考えたことを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして、言葉による伝え合いができるようになる。
	じっくり遊ぶ子	・身近な事象に積極的に関わりながら、物の性質や仕組み等を感じたり気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりする等自分なりに多様な取り組み方をする。 ・自然に触れる体験を通じて自然の変化等を感じ取り、好奇心や探求心をもって考え、言葉で表現しながら身近な事象への関心が高められるようになる。
教育・保育方針	①一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った教育・保育を行いながら、子どもとの信頼関係を築く。 ②情報公開をしたり説明責任を果たしたりする等、きめ細かく丁寧に保護者に伝える。 ③保育の専門性や技能を高め、保育教諭としての資質向上を図る。 ④園小合同研修を行い、子どもの学びについてお互いの理解を深める。 ⑤送迎時や活動時の安全管理の徹底等、個々の危機管理意識を高める。	

自己評価結果（達成状況）【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取り組み（達成）の状況	達成状況	改善の方策（今後について）
園運営	○職員の資質向上 ・計画性のある研修の実施 ○組織体制の充実	・今年度、市教委より保育実践交流会の指定を受け、大学教授による事前研修1回、指導主事派遣研修3回行った。『わくわくタイム』について環境、時間、進め方、振り返り方法等の助言を受けた。職員間の対話が増え保育観や知識の共有等ができ、内容を全職員が周知できるように随時報告した。当日南小校長の参加もあり、市内こども園参加者と意見交換した。 ・職員会議や園内研修を工夫し、時間短縮や対話重視の研修に重点をおいた。指導主事派遣研修では全職員が付箋で『明日に繋がる保育』を伝え合った。 ・時間内に勤務が終わるように働き方を意識するよう声掛けをした。 ・研修報告やミニトークの内容は掲示し全職員が周知できるようにした。 ・資質向上や研修に対する意識が高まり（92%）そこの学びを実践した。 ・計画的にキャリアアップ研修を受講した。市内外主催の研修会にも積極的に参加した。 ・園の財政状況の説明を受け関心度が高まった。（100%）	A	・保育実践交流会では『わくわくタイム』について学んだ。園の方向性が見えたので引き続き深める。 ・人権セルフチェック後の振り返りで、自らの保育の変化を客観的に捉え資質向上に繋がっていることを感じる職員が増えた。又良くないと考える対応を減らす方策を考えた。今後も継続する。 ・職員会議で園の事例からミニトークやKYT研修を行い、同僚性の構築が感じられた。又研修をまとめた発表したりしてプレゼン力も身に付いてきたので今後も継続する。 ・水曜は残業をせずに帰宅する習慣ができてきたので、今後も意識付ける。 ・エピソード記録は子どもの言動の整理ができ、学びを見取ったり様々な意見に触れたりできるので、今後も継続する。 ・できるだけ全職員が研修に参加できるように配分したり2部にした。今年度、園の財政状況の研修をおこなった。次年度も継続する。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	・自然な異年齢交流を軸にわくわくタイムの充実を図った。 ・低年齢児では活動を止めずに牛乳タイムを取り入れた為遊びの時間が増えた。 ・子の言動や仕草から思いを読み取り応答的に援助を行う等幼児理解に務めた。（100%） ・食育活動を積極的にを行い、子と一緒に作物を育てたり収穫野菜を使ってクッキングをしたりする等五感で美味しさを味わった。保護者からも評価された。（100%） ・指導計画は、援助の意図と行為をセットにして作成した。（96%） ・各年齢別に年間カリキュラムの1期ごとに子どもの活動を振り返った。	B	・園内外で主体性を重視した遊びが展開するように遊ぶ姿を観察し、素材や道具、場所、空間等を職員間で対話をしながら進めた。次年度も充実させる。 ・食育活動から教育的な活動に繋がるようにねらいをもつ。 ・1期毎の振り返りや年間カリキュラムの繋がりを意識し、月指導計画に表記する。 ・指導計画の意図と行為を明確にする為、継続する。 ・暑さ対策の為社会見学を時期を早める。 ・生活発表会を改称し『ともだちっていいな』とし、発達年齢に応じて協同性の育ちが見られる場面を意識したり自分なりの表現を尊重したりした。次年度も充実させる。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	・よい子ネットを活用し、おすすめレシピやおやつを配信した。又保護者に遊び場や思い出等のアンケートを行い観覧日に掲示し好評を得た。 ・保護者の送迎の際に声をかけて、子育ての悩みや困り事の相談を受けた。 ・すくすくひろばの参加者が友だちを誘って参加され利用者が増加した。 ・すくすくひろばを交流館、児童館、民生委員、自治会に配付し、掲示してもらった。 ・利用者の100%の方に満足していただいた。 ・季節の製作をしながら遊び場や子育ての情報交換等を行った。又4園合同行事や園行事に参加した。	B	・今年度、利用者の声かけて賑わった。4園合同行事や園行事にも積極的に参加があった。今後も内容を充実させ楽しい計画を立案する。 ・午後開室について検討する。 ・未就児がいる保護者に参加を誘ったり声掛けをしたりする等、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心がける。 ・今後も地域にすくすくひろばを配付したり掲示したりする等協力を依頼する。 ・園行事参加や0歳児との交流も積極的に行う。
安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	・毎月避難訓練と安全点検を行った。9月に通報・消火訓練を行い消防署員から指導を受けた。2月には職員で通報・消火訓練を行った。（年2回） ・業者による遊具点検を行い、不良箇所は修繕した。 ・ヒヤリハットは全職員が目を通し確認表に記入した。又園内外の危険箇所や改善点を掲示した。 ・12月に防犯訓練を行い合言葉や『いかのすし』について確認した。 ・年1回警察や指導員から交通安全指導を受けた。 ・よい子ネットで感染症状況を毎日配信した。又保健だよりを配付したり看護師による園児や職員への保健指導を行った。 ・嘱託医による年2回園児健康診断及び年1回歯科検診を行った。 ・AED研修では乳幼児の心肺蘇生法を学んだ。プール開始前には監視の研修をした。 ・有事の際、防犯カメラで確認した。 ・園は安心できる環境を作っていると評価された。（100%）	B	・全職員が危険箇所を周知できるように掲示し、ヒヤリハットの箇所は黒で対策は赤で追加記載し全職員が意識できるように継続する。 ・今後も実地訓練やAED研修を行う。次年度は外部から派遣し防犯訓練を行う。 ・KYT研修を定期的に行い、危機管理意識を高める。又確実な点呼を意識する。 ・水遊びプール遊びが始まる前には事前研修を行い、適切に監視を行う。 ・避難訓練では、咄嗟の行動がとれるよう様々な場面や時間を想定する。 ・年1回持ち出しリュックの点検を行う。 ・月1回安全点検は継続し破損箇所は修繕する。 ・保護者に状況説明の為、有事の際は防犯カメラ確認を継続する。 ・半年に1回ポータブル電源の充電を確認し（8/22、1/29）、必要に応じて充電する。 ・業務継続計画、保育安全計画、避難確保計画等の見直しを図る。
教育・保育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・年3回巡回相談で心理士から援助方法について指導助言を受けた。 ・定期的に家児相へ支援家庭園児の様子を伝えたり訪問を受けたりした。 ・学期毎に個別指導計画を立案し保護者に同意を求めた。SFを作成し小学校に引継いだ。 ・療育に通う園児や医療的ケア児は、専門機関と支援会議を設け連携を図った。 ・教育委員会主催の特別支援教育研修や市保協の特別支援教育部会に出席し専門知識を高めた。 ・要支援児の発達を理解し個々のニーズに寄り添った支援をした。支援学校や特支学級見学を行った。（100%）	B	・個々に合った支援を行って行く上で、支援方法や支援内容を検討したり相談したりできるように、特別支援委員会を充実させる。 ・今後も送迎の際や連絡ノート等で園の様子や支援内容、又その後の行動の変化等をきめ細やかに保護者に伝えて信頼関係を築く。又必要に応じて懇談を行う。 ・専門機関との支援会議では保護者同席の元、現在の様子を伝え合い双方が共通理解して支援を行えるよう、今後も継続する。 ・医療ケア児について、就学先は保護者の意向を尊重し決定する。決定後は他機関と連携して進める。
家庭・地域 他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	・毎日よい子ネットで園児の活動内容、意図、感染状況、啓発等情報発信、クラスだより、給食献立表、給食紹介を配信した。100%の保護者に満足していただいた。（2月時点：375件配信） ・登降園の際には、気持ちの良い挨拶を心がけ積極的な会話から話しやすい雰囲気作りを心がけ、相談しやすい園を目指した。（100%） ・ケガ、トラブル時は、直接保護者に丁寧に経過を説明して謝罪した。 ・年2回個別懇談を行った。又必要に応じて時間を作って対応した。 ・5歳児と小1の2年間のかけはしりプログラムを作成し学びを視覚化した。 ・7月職員合同研修会を開き、実践発表や自立心を育む環境について研修した。 ・5歳児保護者に向けて南小校長による講話を行った。 ・5歳児は年5回交流を行い、経験を遊びに繋げた。又南小ふれあいマラソンに参加した。登校練習は年5回、1回目に校内見学、4回目に体験入学をした。 ・3月に児童理解を行い対処法を伝えた。 2月には5名ずつ学校チャレンジを行った。小学校との連携について保護者が取り組みの様子を概ね周知理解した。（96%） ・地域事業及び南小学校運営協議会に参加した。（南小マルシェ、秋の文化作品展） ・さつま芋のつる植えや収穫、焼き芋大会等を地域住民と共にを行った。又除雪の協力もあった。 ・高齢者施設を年1回訪問した。感染予防の為玄関先で作品や歌をプレゼントした。 ・人形劇、音楽コンサート、LaQ博士来園イベントを行った。おはなし会は年齢別に3・4・5歳児が定期的に行った。	A	・よい子ネットは毎日1件以上の配信を行い、園を『見える化』することが定着した。園の方針や遊びの意図を伝え幼児教育理解や保護者の安心感に繋がると考える。わかりやすい文章で今後もバランス良く配信し、クラスだより等の配信も継続する。又親子会話の糸口に活用するよう引き続き伝える。 ・『相談しやすい園』を目指し、積極的な挨拶や会話を行いながら保護者が悩みを話しやすい空気感を作る。又他機関との連携の必要性を早期発見した場合は迅速に対応する。 ・今後も先ず一報を入れ丁寧な説明を行ったり謝罪したりする等、保護者に誠意を見せて対応する。重要事項説明書や入園のしおりにカスハラ対策を追記する。 ・小学校との交流活動を通じ両方に学びや気づきがあった事を伝え合った。園小連絡会で調整し今後も計画する。児童理解では園での対処法を伝えた。 ・少人数でゆっくりに学校体験を行う試みを継続する。 ・かけはしりプログラムの作成により、幼児教育の無自覚な学びが小学校教育での自覚的な学びへの繋がりが視覚化され今年度は5歳児担任が実践発表をし具体的に学んだ。今後も継続する。 ・今後も地域事業や学校運営協議会に参加し、共に地域の子どものために協議する。 ・地域住民とさつま芋交流をしたり有事の際協力的であったりする等の関係性を継続し、今後も地域に根ざした園づくりを推進する。 ・人形劇、LaQ博士、音楽コンサート等、お楽しみイベントは開催時期を検討して継続する。おはなし会は年齢別に回数や時期を見直しして継続する。

こども園関係者評価（こども園関係者評価委員より）

・職員頑張りの成果が出て保護者から高評価を得ている。園運営・家庭地域他校種との連携の達成状況はAが妥当である。・保護者アンケートで「早寝早起き朝ごはん」「じっくり物や人と関わる」のA評価が下がっていたのが気になった。・園財政の流れを知る機会があったのが良い。節電節約を心がけたり物を大切に使う意識が高まったりすると思う。・園児達の姿が目に見えるようによくわかった。有事の際も即対応されている。・研修が多いが目の前の子どもにゆったりとした保育を望む。・発熱や発疹等症状が違う場合は迎えを待たず別室にして欲しい。・保護者同士の横の繋がりがないので、親子活動を取り入れるのはどうか。・5歳児保護者に奉仕作業の参加をよびかけるのはどうか。・感染状況について、保護者はどの学年に流行しているのを知りたいのではないかな。

こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

・次年度も子どもの人権を尊重しながら意見を言う環境作りを力を入れる。更に一人ひとりと真摯に向き合い園児理解に努める。・保護者への配信を継続し『園の見える化』を定着させ遊びの意図や会話の糸口の活用を繋げる。・生活習慣改善に向けて保健だよりを発行する等園と家庭との両輪で進める。・園内の感染対策を見直し流行時には早めに対処する。・有事の際は確認後、迅速に誠意をもって対応する。子どもの最善の利益を考えると共に研修テーマ『ともだちっていいな』を軸に、0～5歳児までの学びの連続性を見据えた教育・保育の充実を図っていく。